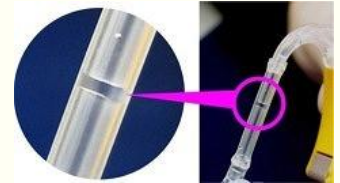


【結露対策】

寒い屋外から暖かい室内へ入ってホッとしますが・・・補聴器や人工内耳はこの温度差により結露がついてしまいます。結露は補聴器のケースや内部の機器に付くケースがあります。

① チューブ部分での結露

耳掛け形補聴器のチューブ部分で結露が発生し、音が出なくなることがあります。このような場合は、チューブを補聴器から外して軽く振れば解消します。



② 使用していない補聴器を室内に持ち込む場合

外で使っていない（電源 OFF）冷え切った補聴器を暖かい室内に持ち込んだ場合は、内部に結露している場合があるので、すぐにスイッチを入れず、室温に馴染んでから使用すると良いようです。



③ 結露対策

夏場の汗対策で使った補聴器用の汗取りカバーなどで保護するのも有効です。

【静電気対策】

人工内耳の装用者がバチッと静電気を感じてもほとんどの場合は人工内耳のシステムには影響はありません。しかし、スピーチプロセッサが放電を受けてしまった場合、電氣的部品に損傷を受け、保存されているマップデータが消えてしまうことがあります。マップデータが消えたときは、マップデータを入れてもらった医療機関に行きマップデータを入れ直してもらえば、いつものように使用できます。

- ① 室内の湿度を保つ（加湿器や霧吹きを利用して室内の湿度を50～60%ぐらいにする）
- ② 服の素材に気をつける（右表の左右に離れるほど静電気をためやすいとされている）



【補聴器用空気電池】



冬場は、補聴器用空気電池の性能が十分に発揮できない場合もあります。空気電池の性能に影響を与える要因は、気温（低温）、湿度（乾燥）、二酸化炭素の濃度（高濃度）の3つです。冬場はこの3つの条件がそろってしまい、本来の性能の60%程度になってしまう場合もあるそうです。



以下のことに気をつけてください。

①電池が冷えている場合は、体温で30秒～1分程度暖めてから使用してください。

（冬場など温度が低い時、発電が安定するまで、数分程度時間がかかることがあります。その場合は暖めてから交換すると、発電の安定が早くなります。）

②部屋の中が乾燥しすぎないようにしてください。

③火気を用いる暖房機器を使用する場合や、多くの人がいる部屋では、換気を充分に行ってください。

*使用済みの空気電池はどうされていますか？
空気電池には微量ですが水銀が含まれている
そうです。電池の回収にご協力ください。



【イヤモールド】

特に乳幼児の場合は、成長によって耳の形が大きく変化します。

ハウリング（補聴器から漏れるピーピー音）が頻繁に起こるようになったり、耳とイヤモールドの間が見えるようになったりしたら、作り直しや修理が必要です。（福祉の給付対象になります。）



*せっかく補聴器を装用していても、イヤモールドやチューブに耳垢が詰まっていることがあります。耳垢や汚れがあると、補聴器の性能が十分に発揮できません。少なくとも週1回はイヤモールドの掃除・洗浄をしましょう。

編集後記

あっという間に平成22年ももうすぐ終わりを迎えようとしています。寒さが厳しくなってきましたが、元気に楽しい冬休みをお過ごしください。どうぞ良い年をお迎えください。